

令和元年度第1回四街道市総合教育会議議事日程

日時：令和元年8月23日（金）

午前10時30分から

場所：市役所第二庁舎第2会議室

開 会

1 市長挨拶

2 協議事項

（1）未来を担う子どもたちの情報教育について

（2）その他

閉 会

第1回四街道市総合教育会議会議録

日 時 令和元年8月23日(金) 午前10時30分～午前11時35分

場 所 四街道市役所第二庁舎第2会議室

出席者 市長 佐渡 齊
教育長 高橋 信彦
教育長職務代理者 府川 雅司
委員 田中友季子
委員 須郷 恭子
委員 小舘 修

出席職員 教育部長 荻野 武夫
教育部参事 濱田 宗孝
教育総務課長 伊藤 克紀
学務課長 安川 裕樹
指導課長 秋庭 行雄
指導課指導主事 石毛 宏尚

傍聴人 3名(男性0名 女性3名)

開会宣言

教育部長

○**教育部長** おはようございます。定刻となりましたので、ただいまより令和元年度第1回四街道市総合教育会議を開会させていただきます。

はじめに、佐渡市長よりご挨拶を申し上げます。よろしくお願いいたします。

○**市長** 皆さん、こんにちは。大変お忙しい中、令和元年度第1回総合教育会議にお集まりいただきましてありがとうございます。教育委員の皆様方におかれましては、平素より本市教育行政の推進にご尽力を賜っております。この場をおかりいたしまして、厚く御礼を申し上げます。

皆様方に再度申し上げるまでもないのですが、この総合教育会議は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律に基づきまして教育を行うための諸条件の整備その他の地域の実情に応じた教育、また学術及び文化の振興を図るための重点的講ずべき施策につきまして協議調整を行うということで、法律的にはそういう位置づけになっていまして、平成27年度からこの総合教育会議を開催しているところです。これまでに小中学校へのエアコンの導入であるとか、あるいは今工事中であります。千代田中学校大規模改造事業、また小中一貫教育における、特に英語教育、昨年は外国にルーツを持つ児童生徒の支援体制の整備ということで、さまざまな関係につきまして皆様方からご

意見を賜ってきたところであります。

今回は、プログラミング教育といえますか、私よくわからないのですが、むしろ今日は皆様方にいろいろご指導を賜って、いろいろな知識を入れたいというのが本音であります。予算編成とか、あるいは条例提案権というのは市長が持っています。しかしながら、教育委員の皆様方はそういう権限はないのですが、やはり本市の教育の政治的な中立性とか、あるいは専門性、安定性、こういったものを委員の皆様がお持ちですので、皆様方と協議調整を図ることによりまして教育施策の方向性を共有して、そしてまた一致して執行に当たるという考えでおります。ですから、この総合教育会議は、本市の教育行政を推進する上で大変重要です。本日は、限られた時間の中ですが、本市のよりよいプログラミング教育といえますか、この方向性を導き出せるようぜひとも皆様の忌憚のないご意見を賜りますようお願い申し上げまして、ご挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくお願いたします。

○**教育部長** ありがとうございます。それでは、四街道市総合教育会議運営要綱第3条の規定によりまして、これより佐渡市長に議長をお願いいたします。

市長、よろしくお願いたします。

○**議長（市長）** 本日の協議事項の（1）未来を担う子どもたちの情報教育、これについてこれから皆様方と協議を進めたいと思います。

グローバル化や情報化、また技術革新など、急激な社会的変化を背景に、新たな指導要領が小学校プログラミング教育の必修化、これを含めまして小中高等学校を通じて情報教育の充実を図ることとなっております。高度な情報化社会を生きる子どもたちが未来の担い手となるために必要な知識や力を確実に備えるための環境を整備するため、授業内容の充実、ICT機器の活用、先生方、教師の指導力向上など、多様な視点から四街道市における情報教育の推進につきまして皆様のご意見をいただきたいと思っております。

はじめに、事務局から説明をいたします。

では、事務局、よろしくお願いたします。

指導課長。

○**指導課長** 指導課長の秋庭です。それでは、私から本市における情報教育の推進についてご説明させていただきます。

まず、会議資料の2ページをごらんください。グローバル化や情報化、技術革新など、急激な社会変化等に対応するため、新学習指導要領では情報活用能力が「学習の基盤となる資質能力」と新たに位置づけられ、学校のICT環境の整備、ICTを活用した学習活動の充実が明記されました。また、小学校におけるプログラミング教育が必修化され、文字入力などの基本的操作の習得とともに、プログラミング的思考を育成することが加えられました。令和2年度の完全実施に併せて、今年6月には「学校教育の情報化の推進に関する法律」も施行されました。別紙資料の1ページをごらんください。全ての児童生徒がその状況に応じて効果的に教育を受けることができる環境を整備するため、学校教育の情報化の推進に関し基本理念、国等の責務、推進計画等が定められました。

会議資料の3ページをごらんください。国の第3期教育振興基本計画（平成30年6月）において、

「情報活用能力の育成」、「主体的、対話的で深い学びの視点からの授業改善に向けた各教科等の指導におけるICT活用」、「校務のICT化による教職員の業務負担軽減及び教育の質の向上」、そして、その基盤となる「学校のICT環境整備の促進」が掲げられています。具体的な整備方針については、別紙資料2から8ページとなります。2ページ左側、国の第2期教育振興基本計画では、3.6人に1台とされていた学習者用コンピュータが右側にありますように3クラスに1クラス分程度に変更されるなど、「授業展開に応じて教師が必要なときに1人1台利用を可能とする環境」を実現することが求められております。

別紙資料の9ページをごらんください。本市における平成30年5月1日時点の教育用コンピュータ1台当たりの児童生徒数は11.2人となっており、全国平均、千葉県平均ともに大きく下回っております。今年度、教育系パソコン等機器備品の更新があり、各小学校へは、ノート型PC21台とタブレット型PC12台、合わせて33台、各中学校にはノート型PC40台とタブレット型PC12台、合わせて52台の学習者用コンピュータが整備されている状況です。確定値ではございませんが、今年度5月1日現在でコンピュータ1台当たりの児童生徒数は、14.0人となっております。

続いて、会議資料の4ページをごらんください。本市教育振興基本計画後期計画においては、情報活用能力や情報モラルを習得するための学習機会を提供するため、より一層のICT環境の整備に努め、ICT機器を活用した、わかりやすく深まりのある授業展開や情報への関わり方を学ぶ情報モラル教育、そして、小学校におけるプログラミング教育を推進していくことを掲げています。

会議資料の5ページをごらんください。これらを実現するための主な事業としては、教育ネットワーク基盤整備事業、小学校コンピュータ機器管理整備事業、中学校コンピュータ機器管理整備事業及び教職員研修事業があります。これらの事業を通して、ICT環境の整備を図るとともに、プログラミング教育研修会や情報モラル教育研修会を開催し、教員の指導力の向上に努めています。

今年度は、主に市内各小中学校において教育系パソコン等機器備品の更新や千代田中学校の大規模改造工事に伴う費用に2億8,000万円規模の予算を計上しております。また、プログラミング教育研修会については、平成29年度より、東京情報大学の松下教授にご協力いただき、プログラミング教育の理論やプログラミングソフト「スクラッチ」を活用した指導法について、各小学校の教員が計画的に研修を受講できるようにしています。

なお、今回整備する機器備品の中には、プログラミング教育に係る備品も含まれており、プログラミング教育研修会で学習した内容を来年度の新学習指導要領完全実施に向けて実践できるよう準備をしているところです。

私からの説明は以上です。

○議長（市長） ありがとうございます。

ただいま事務局から情報教育についての説明がありまして、正直申し上げまして頭の中にずっと入ってくるところと入ってこないところがあって、私自身も混乱しているのですが、ただいまの内容を踏まえまして皆様からのご意見を伺いたいと存じます。

まず、事務局説明に対する質問等がもしあれば伺いたいのですが。

どうぞ、お願いします。

○田中委員 国では、デジタル教科書を導入する方向で進んでいると思いますが、ちなみに本市の

デジタル教科書の整備状況を教えていただけたらと思うのですが。

○議長（市長） どうぞ、事務局。

○指導課長 本市においては、デジタル教科書の配付はございません。

○議長（市長） どうぞ。

○田中委員 ちなみに、近隣の市町村はどのような状態か教えていただけたらと思います。

○議長（市長） どうぞ。

○指導課長 本市を含みます印旛地区におきましては、各市町差がございまして、100%の整備率のところもございますし、本市同様に0%のところもございます。

○議長（市長） ほかに何かご質問ございますか。
どうぞ、小館委員。

○小館委員 私から、1点教えていただきたいと思います。

今指導課長のご説明の中にあつた、これからの社会がまさにグローバル化、情報化する中において今日の議題である情報教育に関わる取り組みが必要だというのはまさにそのとおりだと私も思います。それで、ある調査によりますと、保護者たちが今一番願っていること、子どもに対して、あるいはこれからの子どもが学んでほしいことについて何かと質問したときに、実は実態とは違うのですが、この情報教育に関わること、あるいはICTを活用した学習をしっかりと、子どもがこれからの難しい社会に向けてしっかりと生きていけるだけの力を身につけてほしいという願いを保護者たちは持っているという調査報告がありました。そういう中において、恐らくこの情報教育に関わることは学習指導要領の全面実施されていく状況において当然現場において取り組みが始まっているものと思いますが、本市においてICTの活用や情報教育に関わるものの取り組みとはどのようなことが今なされているのか、簡単に教えていただけたらと思います。

○議長（市長） どうぞ、事務局。

○指導課長 教育課程の編成につきましては、各学校それぞれ学校の実態等に応じてつくっているところです。特にコンピュータを使った学習については、各教科あるいは総合的な学習の時間、場合によっては外国語等、さまざまな場面で活用をしているところです。また、本市においてはeラーニングというものがあつて、パソコンがあれば自宅でも自学ができるようなものがございまして、そういったものを活用した学習等も行っているところです。

○議長（市長） どうぞ、小館委員。

○小館委員 先般行われた学力・学習状況調査、本市の場合はまだ結果、分析等は出ておりませんが、全国の報告を見ますと、子どもたちのアンケートの回答によると、ICTに関わる教育あるいは学習に関して、小学生の子どもは8割を超えている回答、中学生では8割弱がこの情報教育に関する事について学びたいと願っているようです。これからの社会がまさに変化が激しいと先ほど課長もおっしゃっていましたが、物の本によりますと、ここ10年、20年後ぐらいには今ある仕事の半分ぐらいはもうなくなっているのではないかと、つまり自動化されていく、機械にとってかわられてしまう、あるいはそういう職業選択も含めてますます難しくなっていく社会になっていくだろうと思いますので、いろいろな状況の中においてぜひこれから力を入れていかなければいけないと思いますし、その辺の指導においてはどのように考えていますか。

○議長（市長） どうぞ、事務局。

○指導課長 当然にコンピュータ、あるいは学習環境の整備はもちろんですが、指導する側の教職員のスキルであるとか、あとはなかなか全ての教員がパソコンが得意というわけではございませんので、可能であれば、そういったICTについて専門性の高い職員であるとか、そういったものもできれば学校の中に、地域の中にとということもあると思いますが、そういった方たちの協力も得ながら目的に向かって学習内容が充実できたらいいと考えております。

○議長（市長） どうぞ。

○須郷委員 すみません。本市では配置されていないようですが、近隣市のICT支援員の配置状況はどうなっているのですか。教えていただけますか。

○議長（市長） どうぞ。

○指導課長 先ほど同様に本市を含む印旛地区の学校ですが、これも各市町で差がございまして、本市もICT支援員という言い方をさせていただきますが、ICT支援員については配置のないところもございまして、数名をお願いして、これはITの会社で協力を得てということで、そちらの会社から派遣していただくような形で週1回とか週3回とか、あるいは月に何回といった形で時々来ていただく形で派遣をしていただいている状況です。

○議長（市長） 教育長。

○教育長 本市の状況は。

○指導課長 本市は、支援員はおりません。

○教育長 それは、他市の状況ですか。

○指導課長 他市の状況です。

○議長（市長） そのほか。
教育長職務代理人。

○教育長職務代理人 先ほどの説明の資料の5ページから6ページに、本市で本年度ですが、情報教育推進のための事業で1番から4番まで書かれています。その中で、4番の教職員研修事業というのが予算化されて実施されています。情報教育を推進していくためには、教える立場の人の技術の習得など、そういうことが非常に大事であり、それによって本市の児童生徒の情報教育についての理解が深まっていくと思います。先ほどの説明で、平成29年度からいわゆる教師のプログラミング教育研修会を実施していて、本年度で3年目で計画的に行っています。非常に大事なことだと私は思います。小中学校合わせて17校ありますが、計画的にというのは、例えば夏季休業中や授業日に、ある学校では何人ぐらい参加していますか。学習指導要領が来年から完全実施ですよ。完全実施ということを見通し、研修を行っていると思いますが、そのあたりの内容について説明してもらえますか。お願いします。

○議長（市長） 事務局、お願いします。

○指導課長 プログラミング教育研修会につきましては、各学校で職員数に差がありますので、職員数の割合に応じて、例えば大きい学校であれば3、4名とかという形で毎年違う職員がプログラミング教育研修に参加していただくようにしています。なかなか全てとはいかないですが、この29、30、今年度の合計ですと、市内全ての、大半は小学校で、中学校も一部含まれるのですが、合計100名を超える職員がこの研修に参加しております。また、教材についても、市で各学校に研修の補助金を配付しておりますので、そちらの補助金を活用して、テキスト等を複数冊買っていただいています。一昔前ですと、いわゆる情報教育担当が各学校1人だけ来て、専門的な人だけが集まって学校に1冊だけテキストがあるというような形で、昔そういった研修もあったと思いますが、これについてはできるだけ幅広く多くの方が活用できるようにという形での計画的な研修を実施しているところです。

○議長（市長） どうぞ。

○教育長職務代理人 説明ありがとうございました。

3年間市内の学校の先生方がプログラミング教育を研修しています。私は、その研修を受けた先生方が自分の学校に戻ったときに、講師的な立場ではないですが、ほかの先生方にこういう内容を勉強してきたと伝えていけば、成果が出ると思います。だから、研修を受けた人が学校に戻ったときに学校の中で校内研修の推進役になることが大切だと思います。プログラミング教育は喫緊の課題だと思います。指導課として、その辺をよく説明してもらおうといいかと思っています。

以上です。

○議長（市長） ほかにご質問等、ありましたらどうぞ。

○小館委員 わからないことだらけなので、教えていただきたいのですが、プログラミング教育という一つの教育課程に乗っ取った取り組みというのは当然計画的に行われていくと思いますが、その前提というのは子どもたちがやはり I C T 機器だとか、こういうものに気軽に触れる、そういうことが学校生活の中に日常的にあるということが大事かと個人的に思っています。そういう状況において、今本市の子どもたちがどのくらいの時間量、何時間とかというのは難しいかもしれませんが、例えば小学校レベルにおいてこの程度の時間をこんなことに取り組みながらコンピュータに触ってみたりタブレットを使ってみたりという状況がもしわかれば教えていただきたいです。

○議長（市長） では、指導課長。

○指導課長 各学年によってももちろんばらつきはありますが、平均的に10時間前後、多いところでは50時間とか、学年が上がるに従って時間数は増えております。中学校においては、もともと技術科の中でパソコンの使い方等については必修というか、単元として教科の学習内容として位置づけられておりますので、実施しているところです。

○議長（市長） どうぞ。

○小館委員 そうすると、それなりに子どもたちはこの機器等に触れているという実態が本市の場合はあると解釈してよろしいですね。

○議長（市長） どうぞ。

○指導課長 そこについては、触れていると言えると思います。また、いわゆるノート型パソコンでキーボードのあるものと、あとタブレット、タッチ式のもの両方ありますが、そのどちらについても先ほど申し上げたようなスタンスでやっているところです。

○議長（市長） どうぞ。

○小館委員 これは、もしかしたら飛躍をし過ぎの考えなのかもしれませんが、先般行われた今年度の学力・学習状況調査の文科省報告によりますと、千葉県の学力の状況というのは全国平均レベルという数値が出ておりました。文科省の分析によりますと、この学力の数値と、I C T 機器の学校での子どもたちの活用の状況とは相関関係があるという分析結果がはっきり出ています。つまり日ごろからこれらの機器を活用した授業を受けている子どもたちは、総体的に学力が高いと、こういう結果が出ているわけです。そういう意味において、本市の子どもたちのパソコンの設置状況でいうと、14人に1台という報告がありましたが、その数字は決して高い数字ではない。そういう状況において、昨年度の報告では全国平均レベル並みの学力をきちんと獲得している。英語はもっと

飛び抜けていい結果を出している。それは、すごく努力しているのではないかという印象を受けました。そうすると、今14人で1台のパソコンを使っている状況が、もし国の整備計画に基づいた計画的な、先ほど教育長職務代理者が計画的に増やしてもらえればというお話がありましたが、その整備がされていく中で、子どもたちがまさにこの学習指導要領が狙っている主体的で対話的で深い学びというところと結びついた学習になっていったときに、本市の子どもたちの学力の伸びというのはすごく期待できるのではないかという印象を持ったところです。ですから、しつこいようですが、計画的な整備を進めていただけるとありがたいと、きっと保護者も子どもたちもそれを願っているのではないかと思います。

○議長（市長） ほかにございますか。

どうぞ、教育長。

○教育長 今年度2億8,000万円という予算を使って学校のパソコンの入れ替え、それからインターネットのWi-Fiの機能をかなり強化いたしました。基盤整備としてはかなりできたかと思えます。Wi-Fiに関しては、今まで1つのアクセスポイントで十何台だったところが、現在の理論値で。

○指導課長 あくまで理論値ですので、壁があるとかでそのとおり行かない場合もあると思えますが、最大で254台対応できるアクセスポイントにつけかえると。

○教育長 それは2クラスに1カ所ぐらいですか。

○指導課長 そうです。

○教育長 そうしますと、ICT機器を使う基盤というのが整備されたと思えます。2クラスで、理論値ですが、200台以上ということは、2クラスが40台使っても優にデータを取り入れることができる。そういう基礎的な基盤は今年度整備されるということです。

あとは、14人に1台ということは、14クラスに1クラス分ということですよね。それを計画的に教育委員会としても進めていかなければいけないと思っておりますが、今回の2億8,000万円の予算を使って整備したということは、もうかなりその基盤はできたと考えています。

○議長（市長） ほかにございますか。

私教育長と小学校、中学校、まず小学校で給食を食べることから始まったのですが、食べながら子どもたちといろいろ話しをしています。小学校に行ったときに、電子黒板があって、シートみたいな布で覆ってあって、これはどういう活用をしているのですかと。正直言って、もう今から七、八年前の話ですが、電子黒板を使いこなす教員がいないという時代もありました。ただ、今事務局からの説明で平成29年からいろいろ研修に入っているということで、一応2018年、つまり昨年からはICT環境の整備方針というのが国から全てのいろいろな指標、目標値が出ていますよね。それを達成するための具体的な計画はどうなっているのですかというような、そういう趣旨のご質問も

結構あるかと思いますが、その内容的なものは財政課、予算編成とか、そういうときには全体像を絞ったのですか。

どうぞ。

○指導課長 その点につきましては、これから検討を進めていく必要があるかと考えております。

○議長（市長） ICT環境の整備の関係で、これから2018年度から2022年までの間にそれぞれ単年度で1,805億円地方財政措置を講ずるから、整備しなさいよというのが文科省の話ですよ。この地方財政措置というのは、要は地方交付税の基準財政需要額に算入しますという話ですよ。2018年度も文科省に言わせると地方交付税の中にそれも入っているのだと。本当におおよそその話ですが、全国の市町村の自治体数は1,710ですよ。割り返すと1市町村、不交付団体もありますが、1億円ちょっとは交付税措置がされるのだよと、粗っぽい話ではそうですよね。しかし、先ほどから教育長がおっしゃられたように、教育ネットワーク構成事業、令和元年度で2億8,000万円ですよ。これ文科省の考え方はおかしいのではないですか。交付税措置で1億円ちょっとしか措置しないで、実際には今年度はソフトの入れかえ等も含めてパソコン全部買いかえていますよね。それで、2億何千万円かかるのですよね。これ予算権限は私にあるのですが、文科省の言っている財政措置って現実的には大変地方にはつらいですよ。例えば今千代田中学校を大規模改修していますが、国交省の関係の補助金ってすごく補助率がいいですよ、3分の2とか2分の1とか。文科省たった3分の1ですよ。だから、文科省の事業はやればやるほど私たち財政の運営上大変厳しいという現状です。

どうぞ。

○教育長 そんな中で、おかげさまで今年度整備できました。その一つは、アクセスポイントが増設できたということと、それからモニター等の接続が今までは有線でないで接続できなかったのですが、それをWi-Fiで、無線で接続できるようになり、より簡単に接続ができるようになりましたので、そういう整備についてはよくできたなど、自画自賛ですが、そのように思っています。今度は機材等、これは時間をかけて増やしていければと思っています。

○議長（市長） 指導課長、指導課のお考えとしては、財政課との予算要求の中で議論して、それぞれの年度ごとのICT環境の整備に向けた予算措置に努力したい、努めたいということですが、全体像を出してみても、段階的にちゃんとやっていくというような話にはならないのですか。小館委員などは、さっきからそれを一生懸命求めているような気がしますが。

どうぞ、教育長職務代理者。

○教育長職務代理者 今日の資料に棒グラフがあります。県内の教育委員会の状況がわかります。確かにこれで本市の子どもに対するコンピュータの台数は一目瞭然で理解することができます。ですから、今市長がおっしゃった地方交付税措置がされていて、1,805億円だから、全国の市町村を合わせると1,700を超えると。平均すると、1億円前後です。本市は2億8,000万円を使って整備しています。やはり計画的に取り組むことを教育委員会事務局にやってもらいたいと思います。それ

で、子どもたちがより情報教育に明るくなっていく、先生方も明るくなっていくと思います。

○議長（市長） 私は、教育委員会の関係予算の中で、これまで少人数教育の指導教員、先生方を本市独自の財源で確保する、あるいは生徒指導補助教員、こういうマンパワーの整備に力を入れてきたつもりです。ただ、プログラミング教育が来年からもう必修になりますよね。だから、正直言って私自身頭の中でプログラミング教育って実際過去において教わったことがないですし、確かにスマホを持っていますが、電話とメールしか使ったことなく、ラインなんかこれでできるらしいのですが、やったことがありません。正直言って時代についていけない、もうそうってしまったので、これから情報化教育、プログラミング教育と言われても、どういう形で予算措置していけばいいのか、ちょっとイメージとか方針が私自身もまだ持てない状況です。それで、来年度から会計年度任用職員制度が始まりますので、今まで雇用してきていた少人数学級教員とか生徒指導の補充の先生にしたって、会計年度任用職員扱いで、そうすると正直言ってお給料、期末勤勉手当も含めてしまうから1.何倍、2倍はならないかもしれませんが、すごい金額になりますよね。各学校、生徒指導、全部十分できるわけだから、もうやめてしまって、こちらの情報化教育に予算のウエートを移すという話になるのか、それともやはりまだマンパワーが足りないので、少人数教育や生徒指導は大切だから、それはそれでちゃんと押さえてもらいたいという考えになるのか、これからいろいろ皆様方と議論しなければいけないという気がします。文科省は地方財政措置をしている、要は地方交付税の中に入れていっていると胸を張っていますが、実際には文科省は実際の経費の3分の1ぐらいしかくれないのですよね。その辺を議論しなければいけないと思います。

どうぞ、教育部長。

○教育部長 先ほどから市長がおっしゃられているとおり、ICT環境の財政措置につきましては、地方交付税の中で、情報機器については基準財政需要額の中で見ているということで文科省は言っていますが、確かに地方交付税につきましては、もとはこういうことで見ているのですが、市町村に来ますと一般財源として入ってきますので、その用途につきましては各市の状況に応じて、使用目的が決められておりませんので、ほかで使っても何ら問題ないという制度にはなっております。ただ、こういう形で文科省で示されている以上、教育委員会としてはICT環境に使っていきたいという希望がありますので、確かに今年2億以上の予算をつけていただいて、コンピュータの更新をいたしました、これはあくまでもウィンドウズ7のサポートが終了するということでの入れかえでお願いしたところです。プラスの整備という部分につきましては、今回取りかかっている状態ですので、これから教育委員会としてもしっかりと計画を立てまして、なるべく早いタイミングで文科省の基準、その基準に向けて計画を立てて整備をしていきたいと考えております。

市の財政が非常に厳しいというのは我々も十分承知しておりますので、その中で可能な限りの整備を進めていきたいと考えています。

以上です。

○議長（市長） 文科省の整備方針の中で、無線LANとかという話ありますよね。その無線LANについては、2教室に1つの割合で整備するということですね。

あと、校務用コンピュータ教員1人1台、これはもう本市は達成していますよね。

あと、学習用ツールで指導者用コンピュータ等と書いてありますが、校務用コンピュータ、先生方1人1台持っているの、このコンピュータで指導用コンピュータを兼ねることはできないのですか。学習用ツールの指導者用として。

○指導課長 兼用はできます。

○議長（市長） そうですよね。今パソコンもすごく容量が大きくなっていて、いろいろなソフトなどを入れても処理スピードも速いですよね。だから、一応兼用はできるのですね。

○指導課長 はい。

○議長（市長） では、四街道の場合は、教員1人1台校務用コンピュータはそろっているの、指導者用コンピュータはそこにただ単にソフトを入れるだけで済むということですか。

○指導課長 そうです。

○議長（市長） では、それについてはソフトを買うだけだということですね。スクラッチなんかは今年度、令和元年度で買うソフトの中に自動的に最初から入れているのですよね。指導者用コンピュータのソフトってどんなのですか。

○指導課長 マイクロソフトです。

○議長（市長） そのマイクロソフト関係は全部、要はワードとかエクセルとか、みんな校務用コンピュータに入っていますよね。その後何を入れる、あえて指導者用コンピュータって新たに買う必要はないのですか。今回のウィンドウズ7の切りかえの関係で、全部最新に変えてしまいますよね。

どうぞ。

○指導課長 その1台というのは、パソコン室がございまして、パソコン室用に1台別に。

○議長（市長） パソコン室用に。

○指導課長 指導用というのは、職員が普通の教室内なり職員室でそのパソコンで校務を進めるといように使っています。

○議長（市長） だから、その校務用コンピュータを職員室や自分のクラスへ持ち運んでいますよね。コンピュータ室だって持っていけばいいではないですか。

○教育長 要するに先ほどできると言った教師用のパソコンを教室で指導用に使えるかどうかということです。それはできるということですね。

○指導課長 それはできます。

○教育長 教員が今1人1台持っているので、あえて教師用コンピュータというのは整備しなくても兼用ができるということでもいいのですか。

○議長（市長） どうぞ。

○指導課長 パソコン室で使う校務用、いわゆるパソコン室用のパソコン1台、これで例えばですが、パソコンを使った授業をやるときに、教師用のほかの小学校であれば20台、中学校で40台を一括で整備をしてやるためには、全部の1人1台パソコンには入っていない形……

○教育長 そういうことではなくて、私が聞いているのは、教室でパソコンを、要するにタブレット型コンピュータを教室で使うようになるでしょう。それは、教員が一人一人持っている校務用パソコンで教師用として使えるのかということです。パソコンルームではなくて、教室でこれから使うようになるわけです。要するに3クラスに1台ということは、そんなにコンピュータールームを3クラスに1クラスずつつくれないので、教室で使うことが前提でしょう。その場合のことを言っているのですよ。

○指導課長 現状ではそれはできないです。

○議長（市長） 何でできないのですか。だって、今のノートパソコンは容量すごく大きくなっていて、ソフト入れれば済むだけの話だと、素人はそう思います。

○指導課長 予算のこともあるかと思いますが、一応教師用パソコンの「スカイメニュー」というのがほかの子ども用パソコンを制御するものがありますが、それが入れられれば可能ではあります。

○教育長 教室で教師用のパソコンから子どものパソコンを制御したり動かしたりするメニューのことですか。

○指導課長 はい。「スカイメニュー」というものがそのために必要なものになります。それが入っていれば、可能ではあります。

○議長（市長） どうぞ、教育長職務代理者。

○教育長職務代理者 今の話は、今本市は教師が業務効率化や事務処理をするために1人1台パソコンを使っていますよね。それを授業で子どもたちの使用するタブレットとかパソコンに使うため

には、それ専用の学習用ソフトを中に入れてれば対応はできていく、そういう説明で私たち教育委員は理解していいのですよね。ただ、まだ現段階ではそれが入れ込んでいないと、そういうことで理解していいですか。

○指導課長 はい。先ほど言いました子ども用を制御するというのは、入れればできますが、現状では入っていないということです。主に校務用を使っているのは、先ほど市長がおっしゃったように大型のモニターにつないで、教師が例えばグラフを大きな画面で見せるとか、そういったことは現状として行っています。ただ、子どもの手元にはパソコンがないので、モニターで見せる形です。

○議長（市長） どうぞ。

○教育長職務代理者 ということは、教師はパソコンを教室に持っていったときに、資料提示というか、この学習の中の資料を提示すると、それはできるということですか。

○指導課長 できます。

○教育長職務代理者 今現在でも授業の中で活用はできると。ただ、もっとよく活用するためにはその新たなソフトですか、そういうものを入れていけば、今の機種でもできるという理解でいいですか。

○指導課長 可能であれば。

○議長（市長） どうぞ、教育長。

○教育長 W i - F i でつなげるということですよ。要するに今校務用パソコンを教室へ持って行って大きなモニターとW i - F i でつなげるということでもいいですか。

○指導課長 はい。

○議長（市長） どうぞ、教育長。

○教育長 私が校長のときに、もう10年前の話なので、それより進んでいるかもしれないですが、教師の校務用パソコンのW i - F i と教室のW i - F i は違うので、使えないという説明を受けたことがあります。今は大丈夫なのですね。

○指導課長 今年から可能になりました。

○教育長 環境整備をしたからですか。

○指導課長 はい。

○議長（市長） 市役所の職員は、1人1台パソコン使っていますが、あのパソコン、単なる箱であって、いろいろなソフトはクラウドから引っ張っただけですよ。だから、非常に安いですが、学校現場ではそういうパソコンの使い方はできないのですか。1台十何万とか20万するパソコンを入れないとだめなのですか。

○指導課長 現状ではクラウドを使う形にはなっていません。

○議長（市長） サーバーも今各学校に1台ですよ。違うのですか。ちゃんとどこかでクラウドで全部サーバーに生かして。

どうぞ。

○指導課長 校務用のパソコンについては、各学校ではなくて、市原市にデータセンターがあって、そちらに集約しています。

○議長（市長） では、学習用サーバーは学校ごとに1台という文科省の方針があると、本市ではそれをやる必要はないのですね。

○指導課長 現状では学習用のサーバーは中のパソコン室にあるので、各学校ごとにあります。

○議長（市長） でも、学校ごとに学習用サーバーを持っていても何か非効率のような気がしますよね。

すみません。個別な質問、議論になってしまって、申しわけありません。

いろいろご意見いただいているうちに限られた時間になってきてしまったので、小館委員がおっしゃられるとおり、計画的に情報化教育を進めるためのいろいろな環境整備を進めるための具体的な計画をやはり教育委員会事務局において議論する中で、また教育委員会会議の中で細かい議論をしていただきたいという気がするのですが、今日のお話としてはやはりそこですかね。

どうぞ。

○小館委員 市長がそういうお考えであるというのは、本当にありがたいと思います。私は、市民ではありません。市外に在住する者ですが、そういう目で見ても、本市は人的な配置だとか、すごく力を入れてくださっていると思います。ただ、今日の議題にあるICT機器に関しては、これからいろいろやっていかなければいけないところかと思いますが、これに係る費用はやはり教育委員会の単年度でどうしようとか数年度計画でやるというだけでは収まらないかもしれない大きさではないかと個人的には思います。そういう面で、市を挙げて未来に生きる子どもたちのために計画的な整備をしていただけるとありがたいと。本当にお気楽な発言になってしまっていますが、市長を筆頭とする財政に関わる人たちは大変な思いをすることになるかと思いますが、ぜひお願いをしたいと思います。

○議長（市長） どうぞ。

○教育長職務代理者 今小館委員がおっしゃられたように、やはり計画的に、マンパワーもそうですが、ハードも取り組むことが大事になってくるかと思います。教育委員会事務局は推進計画を立てるときに、PDCAプランで計画を立てて検証して、行政事務を執行されていると思います。今市長のいろいろな関係のお話をやはり大変でも事務局ではみんなで共有しながら、こういう条件のときはこうなって、こういう条件のときにはこうなる、だからこうなって、では来年度はこんなことを考えていこうとか、そういうことに取り組んでいてもらいたいし、私たち教育委員にも説明をしてもらいたいと思っています。

○議長（市長） 教育長職務代理者にまとめていただきました。

私も同感です。

教育長、何かございますか。

○教育長 教育長職務代理者、小館委員のお話にあったように、教育委員会事務局としてしっかり先を見据えて長い目で子どもたちの成長を見ながら整備していく必要があるということを痛感いたしました。努力してまいりたいと思います。

○議長（市長） 予定の終了時刻になってしまいました。皆様から貴重なご意見をいただきまして、大変有意義だったと思います。そのかわり教育委員会事務局には宿題ができて、これは毎年度財政課と予算折衝する中においても全体計画がないと財政課もなかなか査定できないですね。事務局でこれから検討を進めていただいて、また教育委員会の中でそれをご議論いただきたいと思います。

本日はさまざまなご意見をいただきましたが、引き続き本市における情報教育の推進、これに我々も予算措置という面で一生懸命頑張っていきますので、よろしく願い申し上げます。

最後に、（２）その他についてですが、皆様から何かございますか。

ないようですので、（２）その他については終了いたします。

それでは、本日の協議事項が全て終了しましたので、進行を事務局へ戻します。

円滑な議事進行にご協力をいただきありがとうございました。

閉会宣言

教育部長

○教育部長 ありがとうございました。

本日の日程につきましては、以上で終了といたします。

以上をもちまして令和元年度第1回四街道市総合教育会議を閉会いたします。

皆さまお疲れさまでした。ありがとうございました。